

## 地方会のウェブ開催の経験と今後のあり方

本岡大道

第15回日本てんかん学会会長

久留米大学医学部神経精神医学講座

今回、第15回日本てんかん学会九州地方会は、完全ウェブ開催で行い、無事盛会のうちに終わることができました。学会終了後、日本てんかん学会事務局より、同様の開催方式を検討している地方会に対して参考になることを伝えて欲しいとご依頼がありました。私共の経験が会員のみなさんに多少なりともお役に立てばと思い、寄稿しました。

今回、いくつかのウェブ会議システムの中からGoogle meetを選択しました。たまたま、私が有料会員(G Suite Business)で制限なく使用できたこと、ログの確認で参加者の把握が可能であること(他のシステムでも可能と思います)、他のサービス(グーグルフォーム、グーグルグループ等)を使うことで会員とのやりとりを利用できること等がその理由です。同様のサービスが利用可能なG Suite for Educationというバージョンがありますが、契約している教育機関は多いと思います(本学も契約していました)。それぞれ確認されるとよいと思います。

最初に大事なことは、①会員データベースの作成です。勤務先や住所も大事ですが、何より正確なメールアドレスがないと話になりません。事務局からの情報発信ができないだけでなく、ウェブ配信そのものが成立しません。メールアドレス収集後は、②メーリングリストとホームページによる情報配信を行います。メーリングリストは迅速かつ確実に情報を配信するために重要ですが、ホームページはメールで得られた情報の確認と共に足りない部分を補足することができます。ウェブ開催は今までの学会とは異なり、③IT関連に詳しいサポー

トチームを結成する必要があります。今回、トラブルシューティングのために4名の助っ人を用意しました。また、ホットライン(会員との連絡用)としてレンタル携帯6台を契約しました。このように準備をしても何が起るのかわかりません。本番前の④シミュレーションが必須です。シミュレーションは会員に慣れてもらうだけでなく、ホスト側にとって予定通りの運営が可能か否か、確かめる場でもあります。今回、2回シミュレーションを行いました。1回目は散々な結果でした。ただ、そのおかげで配信方法を変更するヒントを得ることができました。失敗は次の発展のための糧です。様々な問題を明確化し、その修正と確認のためには、少なくとも2回のシミュレーションが必要です。実際に学会が始まれば、⑤ウェブ開催時の“お作法”を徹底する必要があります。学会で最も大事なことは確実な発表と確実な視聴です。それを阻害するものを排除するために、ゲスト側はマイクのミュートだけでなく、通信量を減らすためのカメラオフも徹底しなければなりません。マイクオフ、カメラオフがウェブ開催時のお作法です。学会の質問方法に関しては直前まで非常に悩みましたが、座長からの質問に加えてグループチャット(slack)を利用することにしました。一つのセッション終了後、slackの各演題のチャンネル(質問のための小部屋)に興味のあるものに入り、10分間自由に討論してもらいました。グループLINEのようなイメージですが、文献を添付してやり取りしたり、あとで討論内容を読み返したりする等、非常に有用で好評でした。

今回、計126名の方にご参加頂きました(非会員が4分の1)。ウェブ開催の強みを生かし、九州各県はもちろん、静岡、東京、山形、愛媛、さらに遠くデトロイトからも参加頂くことができました。ウェブだからこそ、地方会をより充実できる感触を得ることができました。今後、7つの地方会の開催時期をずらし、開催方法はウェブあるいはハイブリッド方式(ウェブ+通常開催)とすれば、他地域から多数の参加が望めると思いますが、いかがでしょうか。各地方会の充実はそれぞれの底上げとなり、延いては日本てんかん学会の発展にもつながると思います。我々、日本てんかん学会が先鞭を付けて行い、具現化することができれば、国内外、てんかん学会以外の学会の発展ももたらすのでは…とひとり妄想しています。